

北山杉の柱を使って救出

特色のある内容

鷹峯学区自主防災会では、学区の総合防災訓練を鷹峯小学校第2運動場をメイン会場に、サブ会場は、サバ街道でも有名な鷹峯街道の各自主防災部の一時避難場所として実施しました。雨天の中、各サブ会場からメイン会場まで集団避難行動訓練を実施し、その後、メイン会場では、煙中体験を実施、鷹峯消防分団員による総合展示訓練の後、同分団員指導による消火、救出、救護搬送と災害対応訓練を実施しました。訓練講評終了後には、炊き出し（配給）訓練を行い無事終了することができました。

写真は、鷹峯消防分団員指導による、ジャッキの取扱要領の説明で、地元特産品の北山杉等をテコとして使った救出訓練の様です。



特記事項

- 鷹峯学区の特色として、林業や造園業、材木業など北山杉に係わる消防団員が多くおられます。そのため、今年の総合防災訓練では、北山杉等の材木を使用し、自主防災組織用器材を活用した救出訓練を実施しました。

車椅子介助訓練を取り入れた総合防災訓練

特色のある内容

柏野学区自主防災会は、毎年行っている総合防災訓練に社会福祉協議会から提供された車椅子を使っての介助訓練を取り入れています。グラウンドにカラーコーンや板などでコースや障害物を設定し、自主防災会本部役員が中心となり、高齢者に車椅子の使用方法や避難、回避方法、バリアフリーの重要性などを知ってもらうためです。

訓練当日は雨天にもかかわらず400名近くの住民が参加されました。バケツリレー訓練では、本部役員がバケツリレーのお手本を示しました。その後に、各自主防災部から3名ずつ選抜し、運んだ水の量とタイムを3班（1班20名）で競い合ったところ皆さん相当熱くっておられました。



車椅子介助訓練の様子

特色のある内容

- 総合防災訓練では、各訓練コーナーごとに消防団をはじめ、自主防災会役員及び社会福祉協議会等の関係機関主導により指導が行われています。
- 学区内にある「柏野安心・安全まちづくり推進協議会」の団体は、京都市からの防災器材以外にも6箇所に種々の器材を配備しており、自主防災会を全面的にバックアップしています。

訓練現示を読み取り進める地域発災型訓練

特色のある内容

岩倉三学区による合同の実践型訓練を紹介します。

想定は、一町内会（木造2階建共同住宅10世帯33人及び木造2階建一般住宅5世帯20人／計53人）の被害想定を倒壊家屋等で会場に設定しました。53人の内訳は、地震時無傷の活動役5人と逃げ遅れの負傷者役に45人（うち5人は助けられた後、無傷として活動役に回る。）を置きました。進行は、被害想定「小火の表示5箇所（20リットル缶に「ボヤ！」の表示）」や「住民〇人が、器材使用（実際に鋸で角材を輪切り等）で助けられる」等の表示パネル11種類15枚（1枚60cm×90cm）と「大火災」表示の大看板（4畳半）を配置して、活動役の人及び応援として駆け付ける三学区自主防災会及び三分団の合計61人が、訓練現示を読み取りながら進めました。時間は、概ね40分で、開始合図は、緊急地震速報及び地震音10秒を使用しました。



特色のある内容

- 今までの総合防災訓練は、会場において消火器の取扱いや起震車による地震体験、応急救護等の個別訓練等を組み合わせて行っていましたが、今回の訓練は、一地域を会場に描いて、助かった人が被害想定を表示を読み取りながら優先順位を考え進めていく内容としました。最初は、現示内容を理解するのに大変手間取りました。
- 活動役や負傷者役の選出をはじめとする訓練説明においては、三学区で編成する自主防災会連合会役員、各自主防災会ごとに説明する必要があるなど、相当な時間を要しました。

悩ましい被害想定訓練

特色のある内容

今年度の総合防災訓練は、これまで経験・体験した集大成として、「自らが考えて行動する」というテーマを主眼として計画しました。朱雀第二小学校グラウンドにT字型の道路を設けて、道路に接して10項目の被害想定を設定しました。主な被害想定は、①倒壊家屋の負傷者をジャッキを使用して救出・救護し、担架搬送、②燃焼中の台所を消火器で初期消火、③ブロック塀が倒壊し、障害物が道路上に散乱している避難困難な道路を車椅子やリヤカーに乗せた高齢者を運搬、などです。参加者を3班に分け、それぞれにリーダーを決め、情報収集班、消火班、救出・救護班、支援班などを設け、リーダーの指揮の下で各班が活動し、終了後には自主防災会長に報告します。このような手順を繰り返し行い、最後は全員が整列して、人員報告を行い訓練が終了しました。



特記事項

- 取組のポイントは、やらされている訓練から脱皮し、「自らが考えて行動する訓練」を主眼として、リーダーの指揮の下、各班長が行動し、統制のとれた活動を実施することです。
- 自主防災会役員が当初考えていたよりも、リーダーをはじめ各班長が熱心に取り組んでいました。訓練参加者も自分の役割をこなそうと真剣に取り組まれ、相乗効果が見受けられました。
- 訓練説明会時、今回のような訓練は初めての試みであるため、リーダーの選出が難航し、最終的に各自主防災会のブロック長から選出しました。
- リーダーと各班長は、訓練参加者をいかにまとめて行動させるかについて相当苦心され、とりわけリーダーは、自宅で相当練習されてきたようで、本番の訓練ではその様子がありありと見受けられました。

地震発生！建仁寺を守れ！

特色のある内容

新道学区自主防災会では、今年度の総合防災訓練実施場所を学区内の文化財社寺である建仁寺の境内に移して実施しました。

大規模な地震災害を想定し、学区内の有効な避難場所である、建仁寺において火災が発生、新道学区自主防災会、各自主防災部、建仁寺自衛消防隊、建仁寺文化財市民レスキュー、新道消防分団が相互に連携協力し火災の鎮圧、文化財の搬出搬送訓練を実施しました。

建仁寺職員により火災を発見、非常ベルの鳴動により近隣へ周知、建仁寺自衛消防隊による初期消火訓練、建仁寺文化財市民レスキュー、新道学区自主防災会が共同で文化財の搬出、搬送訓練、最後に新道消防分団も参加し一斉放水訓練を実施し火災を鎮火させました。

一斉放水訓練実施後、参加住民がブロック毎に初期消火、応急処置、起震車による地震体験を実施しました。

建仁寺文化財市民レスキュー、新道学区自主防災会合同の文化財の搬出、搬送訓練を実施している状況です。



特記事項

- 今年度の学区総合防災訓練では、建仁寺自衛消防隊、建仁寺文化財市民レスキュー、自主防災会、消防団合同で文化財を守り、避難場所を確保するための総合的な訓練が実施できた事は大変有意義で効果的でありました。

阪神・淡路大震災の教訓を再認識するために

特色のある内容

今熊野学区自主防災会は、平成20年9月に今熊野小学校で総合防災訓練を実施しました。例年は各自主防災部単位で一時避難場所へ避難していたものを、今回は午前9時に地震が発生したとの想定で各自初動措置を行なった後、各家庭単位で自主的に避難するという内容で実施しました。阪神・淡路大震災など近年発生した大地震の教訓として、学区民の防災力向上はもとより、各家庭でどのような物を備えればいいのかとの要望が多くあることから防災用品と市販されている簡易トイレを展示しました。

(活動内容) バケツリレーによる初期消火訓練、防災器材を使用した救出救護訓練、起震車による地震体験、防災用品と市販されている簡易トイレの展示、京都府警救助隊による救助器材展示、今熊野消防分団による放水訓練。



防災用品と市販されている簡易トイレの展示説明風景

特記事項

- 自主防災会長が訓練内容を提案し、各家庭単位で自主的に避難するという内容で総合防災訓練を実施したが、例年と変わりなく大勢の学区民が参加されました。起震車による地震体験では、地震の怖さを知り、また、防災用品と市販されている簡易トイレの展示を見学するなど、参加者は、震災時における必需品の必要性について再確認ができました。
- 簡易トイレの中に、市販されている猫トイレ用の砂を入れておくと、消臭効果や凝固作用で捨て易いことも知ることができました。

二部構成の総合防災訓練

特色のある内容

陵ヶ岡学区自主防災会では、総合防災訓練を二部構成で実施しています。

第一次訓練では、各自主防災部ごとに避難した集合場所において消火・救助・救急訓練を実施し、第二次訓練では、避難所に指定されている陵ヶ岡小学校において、煙の中を避難する訓練、ジャッキ等を使用しての救出訓練、調理実習室で炊き出し訓練を実施するというものです。

自主防災部ごとに行う第一次訓練では、消火訓練は消防隊員が、救助訓練は自主防災会役員と防災部長が、救急訓練は消防分団員が、住民ひとりひとりの状況に見合った丁寧な指導を行っています。

また、消防分団による避難路確保の水幕放水は、学校プールのサクシオン（採水口）を使用して実施し、プールが火災時等の消火用水源となることを説明するなど、学区民に対し、様々な防災アピールを行っています。



特記事項

- 第一次訓練の段階から、社会福祉協議会から借用した車椅子を使用しているため、総合会場となる小学校への避難完了時刻がバラバラとなるなど、実践的な訓練を志向すればするほど課題は山積です。
- 先に避難を完了した学区民の時間の有効活用策を検討するなど、常に創意と工夫を凝らして前向きに訓練を行っています。

学区防災行動計画に基づく年2回の防災訓練

特色のある内容

近年、多種多様な災害が発生する中、春日野学区自主防災会では、『学区防災行動計画』に基づき、毎年9月及び年度の締めである3月と年2回の防災訓練を実施しています。9月に実施される総合防災訓練では、大地震を想定した『地域発災型』を主とし、種別については、その年度のメインの活動を事前協議で調整のうえ決定し実施しています。

中でも、平成19年度に実施した、ブロック別対応訓練では、学校への避難前に、近隣の自主防災部がブロック別に集結し、初期消火、救出、応急救護等の訓練を一斉に実施し、その後、避難所である小学校への避難訓練を実施したところ、学区民にも非常に好評でした。

3月の防災訓練では、避難所運営訓練及び学区表彰式がメインで、特に表彰式については、年度を通して、防災活動に寄与し、功労された防災部、個人及び団体等に同会の会長から表彰されるものであり、学区民への防災意識の高揚及び活動意欲の向上等を図る目的で実施しています。



特記事項

- 平成19年度の『ブロック別対応訓練』については、学区全体の14自主防災部を7ブロックに分けて、各ブロックの中心にある自主防災部の空地において実施したのですが、初期消火、救出、応急救護等3種別の訓練の器材調達、安全管理、人員配置等に苦労がありました。
- 自主防災会だけでは賅うことができず、自主防災会、自主防災部、消防団及び消防署等が連携して無事実施できたものです。

段階的な防災リーダーの育成

特色のある内容

- 1 桃山消防分団は、三つの小学校区を一括に担当しており、災害発生時の初期活動においては三つに分散する可能性があることから、特に一般住民を先導する自主防災部長の育成に力を注いでいます。
- 2 総合防災訓練は、自主防災部長への研修に時間を拡充するため2年に一回の実施としており、2年間の集大成として総合防災訓練を実施しています。
- 3 自主防災部長を隔年で交代する自主防災部が多いことから自主防災リーダー研修を始め、普通救命講習、総合防災訓練を実施しない年にあっては、自主防災部長研修として、市民防災センターで体験学習を行い、防火防災に関する知識と意識の向上を段階的に図るとともに、研修等を経験した人員を積極的に増やしています。
- 4 集大成として実施する総合防災訓練では、「AED取扱訓練」や「倒壊家屋からの救出救護訓練」等、『体験』できるコーナーを拡充し、各コーナーでは地域の防火防災の先導役である消防団が指導を行い、自主防災部長が率先して見本を行うことで自立した姿を形成し、一般住民に普及しています。



特記事項

- 取組のポイントは、地域の防災リーダーを数多く育成することを目的として「自主防災部長」を対象に充実した研修を行うとともに、各研修を段階的に組み立てることにより、知識と意識向上の連動性を図り、その集大成の位置づけとして「総合防災訓練」を実施しています。
- 参加した自主防災部長からは「防火防災への興味が沸き、もっと勉強したい気持ちになった。町内にも広めていきたい。」との声が聞かれました。